

今年25周年を迎えるアメリカの新聞「USA TODAY」では、この25年間に振り返る特集を現在組んでいる。テクノロジーの進化とともに、カセットがCDに、VHSがDVDになった。数年前にパソコンで作った資料を開こうとしたものの、既に関り替えたパソコンではフロッピーディスクが対応しておらず、O

週刊

コラム

A機器の進化のスピードに驚いたこともある。インターネットが生活習慣にも変化を与え、皆が携帯電話を持つ時代になっている。日本でも、毎朝eメールをチェックすることから仕事が始まるという人も多い。

神奈川県調べによると、「家庭や職場、学校などでホームページの閲覧などにインターネットを利用

最近ではリサーチをすることを「グーグルする」もしくは「ググる」という。ネットを使った検索を前提とした言葉遣いである。パソコンに向かって質問をすれば、すべての回答が得られるかのような錯覚にも陥ってしまう。

最近ではリサーチをすることを「グーグルする」もしくは「ググる」という。ネットを使った検索を前提とした言葉遣いである。パソコンに向かって質問をすれば、すべての回答が得られるかのような錯覚にも陥ってしまう。

携帯電話の世界では、絵文字なるものが席巻しニコニコしたマークの顔文字や、星、ハートといったアイテムを使いこなさないと、相手に気持ちが伝わらないとまで言われている。それでも、自らの意志を伝えるには言葉を媒介とする

携帯電話の世界では、絵文字なるものが席巻しニコニコしたマークの顔文字や、星、ハートといったアイテムを使いこなさないと、相手に気持ちが伝わらないとまで言われている。それでも、自らの意志を伝えるには言葉を媒介とする

携帯電話の世界では、絵文字なるものが席巻しニコニコしたマークの顔文字や、星、ハートといったアイテムを使いこなさないと、相手に気持ちが伝わらないとまで言われている。それでも、自らの意志を伝えるには言葉を媒介とする

メール時代こそ礼儀を

ことに変わりはない。しかしながら、その言葉を正確に選択し、かつ、情報を受け取る相手をおもんばかって発信しているか疑問に思うことがある。

大学生から相談や依頼のメールを受け取ることも多い。気になるのは言葉の使い方である。メールは手紙よりもカジュアルなツールであるから、形式には私にこだわらないが、必要な情報を正しく伝えることは求められている。「『説明』に伺いたい」と書くべき所を「『協議』したい」となっているならば、受ける印象はだいぶ異なる。

既知の仲であっても、スピードを重視するあまり、共通認識となるべき前提や背景の説明を省略してしまい、メールのやりとりで誤解が生じることもある。電

話のようにニュアンスを込めたり、その場で聞き返したりできない分、慎重に表現を選ばなければならぬ。メールを受け取ってから初めて面会することも多い。昨今、メールは第一印象を左右するツールにもなっている。

「USA TODAY」が選んだこの25年間に消えてしまった物の中に「サンキュー・ノート(お礼状)」に代表されるような礼儀正しさが含まれていた。返信用葉書きの正しい書き方を記事にしていたこともある。情報の送受信が簡略化される一方、返信はがきの書き方が指南されるのは、人々はいつの時代でも作法を含めた人間らしい通い合いを重要視するとい

う表れであろう。同時に、機械を通じた表現であるからこそ、言葉の正確さや、礼儀、作法がますます求められるのだと思う。

東京純心女子大講師
早大客員講師
牧島可憐



東京純心女子大講師
早大客員講師
牧島可憐